

種智院大學 同窓會報

第26号
平成12年3月10日
種智院大学同窓会
〒612-8156
京都市伏見区向島西定請70
TEL(075)604-5600 FAX(075)604-5610



新キャンパス竣工記念 絵画寄贈

平成11年4月母校種智院大学が伏見区向島の地に新キャンパスを竣工し、移転したことを記念して、同窓会員の松崎隆雄氏（昭和22）より「室戸岬」の油絵が寄贈された。平成11年度同窓会総会の席で披露され、席上今井圓明学長からも感謝のことばが述べられた。作者の松崎氏は「青年空海が求聞持法を成就した記念の地を描き、天才といわれた方でさえ努力・研鑽を積まれたことを忘れないよう、これからの若い人たちの指針としていただければと思う」と語っている。

【松崎隆雄氏略歴】



大正15年7月22日生まれ、広島県福山市ご出身。昭和22年京都専門学校卒業。昭和23年公立小学校教諭を拝命し、以後教育畑に専念され、昭和49年公立小学校教頭、52年公立小学校校長をへて昭和62年定年退職。その間、光風会理事・日展参与緒方亮平氏と芸術院会員田村一男氏に師事し研鑽を積まれた。昭和36年光風会に初入選、42年日展に初入選、50年光風会会友に推挙、55年光風会会員に推挙され、福山美術協会理事等を歴任。また、光風会展中国新聞社賞、光風会広島展県知事賞等受賞され、東京松坂屋等各地で個展も催されている。現在広島県神辺町在住。

種智院大学講堂の本尊及び仏具等寄付金勧募状況報告

平成12年3月1日現在 (単位:円)

地区支部名	会員数	申込数	達成率(%)	入金額
北海道	13	3	23.08	150,000
東北 (福島・宮城・岩手・秋田・山形・青森)	25	3	12.00	50,000
関東・甲信 (東京・埼玉・千葉・茨城・群馬・栃木・山梨・長野)	62	17	27.42	960,000
神奈川	25	4	16.00	480,000
北陸 (新潟・富山・石川・福井)	42	5	11.90	370,000
東海 (静岡・愛知・岐阜・三重)	96	13	13.54	300,000
滋賀	49	8	16.33	430,000
京都	263	45	17.11	2,930,000
大阪	249	28	11.24	1,190,000
兵庫	184	41	22.28	4,870,000
奈良	101	13	12.87	310,000
和歌山	14	3	21.43	70,000
岡山・鳥取	88	30	34.09	1,380,000
西中国 (広島・山口・島根)	67	26	38.81	2,690,000
徳島	33	9	27.27	250,000
香川	34	10	29.41	1,150,000
愛媛・高知	22	6	27.27	370,000
九州 (福岡・大分・宮崎・佐賀・長崎・熊本・鹿児島・沖縄)	62	12	19.35	470,000
合計	1,429	276	19.31	18,420,000

目標額までいまま少しのところまでまいりました。会員の皆様の温かいご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

郵便振替口座：00920-1-20456

口座名：種智院大学同窓会
(一口10,000円 三口以上希望)

同窓生異動

□後七日御修法厳修

平成12年度庚辰歳の後七日御修法は、1月8日(土)より14日(金)まで東寺灌頂院道場において勸修寺流泉宝方金剛界咒立で奉修された。同窓会・本学関係からも多数出仕して厳寒の中勸修された。主な出仕者および配役等は下記のとおり。

供僧配役

五大尊 善通寺法主 高吉清順 (昭和19)

神 供 泉涌寺長老 川村俊朝 (昭和22)

伴 僧 西大寺長老 谷口光明 (昭和24)

定額僧 (供僧出仕者以外)

(勸修寺) 筑波常遍 (昭和33)

(醍醐寺) 麻生文雄 (前学長・名誉教授)

(大覚寺) 片山宥雄 (昭和19)

(西大寺) 須方智證 (準)

(教王護国寺) 鷲尾隆輝 (賛助)

(清澄寺) 坂本光謙 (準)

(随心院) 亀谷和雄 (賛助)

承 仕

(智積院) 田中悠文 (昭和63)

(中山寺) 高島圓隆 (平成8)

(泉涌寺) 小松道英 (平成4)

随 行

(智積院) 鬼頭宗隆 (平成10)

(大覚寺) 中村禎成 (平成11)

(教王護国寺) 湯口智彦 (平成10)

(泉涌寺) 湯浅英明 (平成10)

□ 種智院大学新キャンパス移転記念 「綜芸種智院式并序」の複製成る

「綜芸種智院式并序」は、「遍照發揮性靈集」第十巻に収められており、原本は上杉神社（山形県米沢市）に所蔵されている。弘法大師の真跡のうちでも首尾完存しており、その字体は大師の円熟した書風に満ちている。そのため国の重要文化財にも指定され、真言宗のみならず日本にとっても貴重な文化遺産である。

この「綜芸種智院式并序」は、天長5年（828）我が国初の私立学校である綜芸種智院創設における建設趣意書として弘法大師によって執筆された。ここには一般の民衆に広く教育・学問の門戸を開き、それぞれの個性に応じた教育を施すことによって、仏の智慧を普く及ぼさんとする大師の教育理念が明確に述べられている。弘法大師は、この綜芸種智院において、ひとが生まれながらに具有する種智（仏の智慧）を芽生えさせ、衆生を導き、教育する人材を育成することを目的とされたといわれている。

その大師の遺志を受け継ぎ、綜芸種智院の伝統を現在に伝える母校種智院大学が、平成11年4月に新たに伏見区向島の新学舎に移転したのを記念して、種智院大学卒業生の湯通堂法姫（平成8）氏が主宰する御法インターナショナル社が「綜芸種智院式并序」の複製を発刊した。原本により忠実な卷子装と、書道手本等に使用しやすい折帖装の二種類があり、いずれも本体は上質の和紙の雲母引で、表は正絹を使用した重厚な装丁になっている。

複製版「綜芸種智院式并序」の製作責任者で発行者の湯通堂氏は、「『綜芸種智院式并序』は、国民を広く啓蒙し、より高い人間性に導く教育こそ良き国づくりの礎であるという弘法大師の教育理念を現代に伝えるものであり、種智院の精神そのものである。キャンパスの移転は、東寺の学舎に学んだものとしては淋しい感もあるが、何処の地に在っても、この綜芸種智院の精神を失わない限り、種智院大学は弘法大師の大学でありつづけると思う」と語っている。

この複製「綜芸種智院式并序」の価格・購入方法については以下のとおり。なお、いずれも化粧箱入、読み下し解説つきである。

卷子仕立・会員特別頒価 2万円(百部限定)

折帖仕立・会員特別頒価 1万円(百部限定)

ただし、大量に注文の場合は別途相談に応じるとのことである。

問い合わせ先：御法インターナショナル
Tel 075-352-0280まで。

□ 沖田定信師の受章

本学卒業生で、真言宗御室派財務部長、徳島県美馬郡貞光町東福寺住職沖田定信師（昭和35）は、永年の更生保護の功績によって、平成11年度秋の褒章で藍綬褒章を受章された。

沖田師は、29歳から保護司として、主に少年院を出た未成年者の身元引受や社会復帰に尽力し、また親身に相談にも応じて、現在まで二十数名の更正に貢献してきた。

また、地元小学生の一日研修や夏休み「三日坊主修行」などを通じて青少年の健全育成にも尽くされてきたことが今回の受章となったものである。

さらに、沖田師は、郷土史研究をライフワークとされており、「美馬郡医事史」等の著作もある。

□ 清瀧智弘師遷化

京都市右京区太秦蜂岡町大本山廣隆寺貫主清瀧智弘師（昭和38）は、去る11月27日午後2時58分、世寿60歳を以って遷化。哀悼。即ち通夜は11月30日午後7時より平野英哉泉涌寺寺務長導師で営まれ、本葬儀は12月1日午後1時より有馬頼底京都仏教会理事長導師のもと京都仏教会葬をもって営まれたが、参香者多数で盛葬であった。

故大和尚は、昭和15年5月18日生、同志社高校を経て昭和38年種智院大学を卒業、昭和57年廣隆寺貫主に晋山。昭和60年より京都仏教会常務理事。昭和57年より62年にかけて、京都市による第3次文化観光税（古都税）問題が起こったときは、京都仏教会の常務理事として積極的に対処した。京都の景観について危機感を抱き、仏教会として運動を提起し、現在の景観問題の取り組みへと繋がった。また、平成11年5月の古都税問題以来の京都市と京都仏教協会の17年ぶりの和解へ向けて、中心的役割も果たした。そして7月には真言宗御室派を離脱し、単立になったばかりだった。寺門興隆、また京都の仏教界の発展にも寄与し、その遷化が惜しまれている。喪主は次女で住職の清瀧隆智師（平成10）。

種智院大学の放映

平成11年12月15日、「おもいっきりテレビ」の中の「今日は何の日」のコーナーで、「空海の作った日本初の学校」として母校種智院大学が15分にわたって紹介された。この番組は、月曜から金曜日までの毎日、午後0時より日本テレビ系列で放送されており、その日その日の出来事の特集したものである。12月15日というのは、天長5年弘法大師によって「綜藝種智院式」が制された日で、綜藝種智院が創建されるにいたった経緯と、その精神が現代に生かされている学校として特集されたものである。

まず上杉神社所蔵の「綜藝種智院式并序」(重文)が紹介され、旧堀川通八条下ルの綜藝種智院跡の碑、創建の時代背景の説明などのあと、仏教の教理を軸に寺院子弟と一般の学生とがともに学ぶ学校として大学の講義風景が映し出され、空海の教育理念は千二百年の時を経て現代になって結実したと結ばれた。

この日はちょうど常楽会法要の日であり、午後からの記念講演に先立ち収録したばかりのビデオを上映し、参加者から好評を博した。

● 学生だより ●

可能性へのスタート

—キャンパス移転からの一年—

四回生 佐藤 浄信

歴史・伝統という重みを肌で感じながら学んできた“東寺キャンパス”から、向島の地に移転し、CollegeからUniversityへと可能性へ向けて“向島キャンパス”が創設され、一年経ちました。三年間慣れ親しんだ東寺境内の宗教色豊かだった旧校舎を懐かしく思いますが、新キャンパスは、仏教福祉学科も新設され“大学らしさ”があふれています。そして種智院大学の伝統の中で培われたカラーに、我々学生が新風を送り込み、再構築できる可能性を持っています。

移転後からは、学生の活躍できるスペースとして、クラブ室・体育館・グラウンドなどの新しい設備ができたことにより、たびたびの軽音楽部のライブや画像同好会の写真展が開かれたり、音智会の日々の練習、サッカー部や野球部、バスケット部の他流試合のための練習などと、確実に音楽

系や体育系の部やサークルは活発になりました。グラウンドや体育館で、汗を流して試合に向けて練習している学生の姿は、今まで学内で目にする事のない一面でもあります。

また、去年の常楽会の法要も講堂で行われたことにより、古義・豊山派・智山派の年々人数が増える職衆も、多数の参列者もゆったりしたスペースで、また新しい形で法要を執り行うことができましたことは、参加した我々にとってもうれしいことでした。

大きな変化としては、学生数の増加により、以前のような学生のほとんどが顔見知りというアットホームさが少なくなったことは残念であるが、大学へ来たという意欲を燃やせる体制になったことは、我々にとって喜ばしいことです。そして規模の拡大にもかかわらず、本学の良さである先生方と気軽に話せる距離感は失わずに維持していることにホッとしています。やはり発展を考え移転したことは、アットホームさからみれば一見纏まりがつかないように見え、慣れるまでには時間がかかるでしょうが、結果として学生がのびのびしてきたことはとても良かったように思えます。学生食堂やテラスが新しい“たまり場所”になり、早くも学生は適応しています。また学食は、今やなくてはならぬ存在です。

私個人で一番の変化は、通学路で季節の移り変わりを日々楽しめたことでした。広い田んぼの中を風の道が大きなうねりを見せて通り過ぎたり、黄緑色の穂先が風にサワサワと揺れる音や、稲穂が重たげに頭をたれるなど、空の色、鳥やとんぼなどの忘れかけていた大事なもの、自然が見せてくれる曆が、やはり生きていくことへの感謝の念を抱かせてくれます。仏教の理念をベースに“ひと ころろ いのち……自分を見つめる”の人間学をテーマに、学問に向かおうとする本学が、優しい環境の中で“いのち”を考え、前向きに生きる力強さを養える学生が、OB・OGの方々の大きな協力を得て、一人でも多く育つことを望んでいます。

この新校舎への移転を機に、より学生の力が発揮できるよう、我々学生の手で種智院大学を“創る”という強い意志と責任で、弘法大師の理念のすばらしさを引継ぎ、社会に還元できるよう、2000年代という未来に向かいたいと思っています。

「出会い」への感謝

平成11年度降誕会・常楽会実行委員会
委員長 遠藤 大純

まず遅ればせながら、平成11年度の降誕会・常楽会が無事成満できましたことをご報告申し上げます。各ご本山様をはじめ、多大なご支援、ご指導をいただきました皆様、誠に有り難うございました。

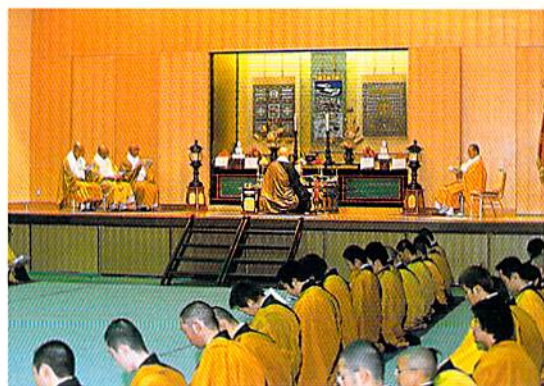
本年は、向島新学舎に移転し、初めての法要であり、不安と戸惑いのなか法要に向け日々精進して参りました。

降誕会では「令法久住一物の興廃は必ず人による。人の昇沈は定めて道にあり」をテーマに宗祖弘法大師の精神をもう一度深く味わい、両祖大師のご生誕をお祝いしました。また、午後からは本学宗教部長山崎泰廣先生を講師にお迎えし、「命の蘇る理趣経」の演題のもと、大変貴重なご講演をいただきました。

常楽会では、「護持遺法」をテーマに、大恩教主釈迦牟尼如来を追慕し、涅槃講にて四時間にも及ぶ式次第のもと、厳重に執り行いました。午後からは本学専任講師佐伯俊源先生に「日本における釈迦信仰—明恵上人作『四座講式』を中心にをテーマに、1時間という大変短い時間ではありましたが、とても有意義なお話をいただくことができました。

学園法要実行委員としての任期を終え、今さらにして自らの非才をただただ痛感するばかりではございますが、副会長をはじめ、ヤル気あふれるスタッフに恵まれ、彼らと共に歩んだこの一年間は、私の学生生活の中ではかりしれない財産となりました。今回このような機会に出会えたことに深く感謝いたしております。

合掌



学園祭を終えて

平成11年度学園祭実行委員
2回生 福井 孝明

私達の仕事は、前年度の学園祭終了後、すぐに始まりました。新しい役員への引継ぎをおこない、同時に各部署の仕事の内容を教えてください、新体制がスタートしました。平成11年度は、学舎が移転し、それまでご支援いただいていたなじみの土地を離れ、新しい場所で運営してゆかなければなりませんでしたので、印刷所を探したり、広がった校舎の使用について大学側と交渉するなど、従来にはない作業も増えました。いっぽう、各部・サークルに対しても、企画・実行に当たっての協力も要請しました。



新しい場所でおこなう学園祭ですので、広報活動にも工夫を凝らしました。向島周辺の商店街や近隣の駅などにもポスター掲示をお願いしたり、様々に知恵を出し合って活動しましたので、連日連夜8時近くまでも大学に居残る状態が続きました。

また、一部トラブルも発生しましたが、スタッフの協力のおかげで事なきを得て企画を遂行することができましたことは、今となっては感慨深い思い出です。

今年からは、体育館とグラウンドができたことで、広い場所を使用するイベントも実行できるようになりました。体育館を使用しての、芸能人ライブ、劇団を招いての公演、ビンゴなどゲームをおこないました。同時に喫茶店を設け、コーヒーと近所のパン屋さんのご協力でパンを用意し、舞台上のイベントを見ながら味わっていただけるように企画しました。

グラウンドには、各部・サークルによる模擬店を出したり、様々なイベントも催しました。

大学の構内の中央に位置しますマンダラ広場では、前夜祭として夕方日が沈むころを見計らってマンダラの上に蠟燭を立て、幻想的な、一味違っ

た雰囲気を楽しんでいただいたりもしました。
 このように、学園祭はつつがなく終了することができました。これらの企画を運営、遂行してゆく過程でご協力いただきましたスポンサーの方がたや、学内の先生方、事務職員の方、そして学生の皆さんのご協力によるものと、感謝

しております。

なお、私の後日談ではありますが、学園祭終了後、近所の商店街の会長さんからお電話を頂戴し、アルバイトをお世話していただきました。これも私達が少しでも地元へ根づくことができたのだと、感じております。

卒 業 生 及 び 卒 業 論 文 一 覧

【仏教学コース】

- 河本 佳孝 鎌倉仏教の末法思想-法然における末法思想と浄土宗立宗-
- 土田 満穂 阿弥陀経の研究-インド初期大乘仏教の中で-
- 中江 円至 懺悔について-律と大乘仏教-
- 中村 忠司 道元禅師の人間観-出家と在家の問題-
- 山本 信弘 原始仏教教団と在家信者のかかわり
- (故)鈴木 照寛 インドにおける阿弥陀仏信仰の成立に関する研究

【密教学コース】

- 相川 孝純 頼瓊僧正について
- 小川 智弘 興教大師覚鑑における五臓観の考察
- 小川 永 「三昧耶戒序」の研究-特に三昧耶戒について-
- 金成乃文雄 興教大師覚鑑上人の思想について
- 倉嶋 慶秀 金剛頂経における五相成身観について
- 小西 理代 帝釈天について
- 小松ゆかり 「大日経」における心についての考察
- 斎藤 明弘 「昨字義」にみられる大師の声字観について
- 佐藤 浄信 弘法大師空海の思想にみる独自性
- 田村 哲秀 興教大師覚鑑上人の一密成仏
- 友繁 二郎 金剛頂経における十六大菩薩について
- 古越 宏志 孔雀明王について-密教における孔雀明王を本尊とする意味-
- 溝口 泰守 「大日経」における真言相について
- 都 真雄 中期密教經典における菩提心
- 村上 竜智 十一面観世音菩薩の行法について
- 山本 一博 真言密教における「塔」の深義について
- スタン・シヤキヤ 「金剛頂経」における序分についての考察
- 大林 正治 金剛頂経における八供養菩薩について
- 嶋 悠久 弘法大師の人間観
- 沼野 直子 真言宗の安心について
- 藤本 泰宏 密教における世界観
- 井上 敬司 空海の密教観
- 小田 圭一 金剛頂経における三十七尊について
- 寺島 信介 空海の成仏観
- 【密教文化コース】
- 青木 宏樹 織豊政権の仏教政策
- 足立 義尚 地藏菩薩の一考察
- 天野 真弓 十一面観音像について
- 安藤 篤彦 七福神信仰の一考察
- 安藤 友美 五色不動の成立と信仰
- 池田 政信 山陰地方における魔仏毀釈について
- 伊比 圭司 庄内地方の板碑について

- 輪詞 泰宏 性海寺所蔵の木造漆塗五輪塔の一考察
- 宇野 真也 孔雀明王の一考察
- 小田 吉孝 十二神将の一考察
- 片山 義裕 十三仏信仰の歴史的考察
- 亀山 博司 四国遍路日記の研究-とくに澄禅四国遍路日記を中心として-
- 栗田 吾峰 日本における不動明王の表現と信仰の展開
- 黒木 隆英 叙尊教団における勧進-宇治橋を中心にして-
- 黒坂 陽平 大黒天について
- 滝山 正明 弘法大師の入定信仰について
- 中西 学 太元帥明王の成立と展開
- 永瀬 豊 聖宝と醍醐寺創建について
- 羽吹 亮英 成田不動について
- 東田 和仁 吉祥天について
- 加藤 瑤子 「理趣広経」の曼荼羅について
- 蛭田 剛 金剛界九会曼荼羅について
- 藤田 志保 六字観音と六字真言
- 別府 広隆 南山進流声明の一考察
- 堀口 弘憲 大福寺庭園とその特色
- 本多 一欽 行基における社会救済事業-布施屋の役割について-
- 水島 暁 戦国期根来寺の軍事的様相
- 宮内 靖仁 剣山の信仰について-とくに修験道との関わり-
- 村上 晋弘 鬼の伝承について
- 山崎 秋雄 毘沙門天とその信仰
- 脇本 英雅 日本の寺院建築について-法隆寺の伽藍配置を中心に-
- 分部 剛 即身仏信仰について
- 國宗 智美 闘茶とお茶講
- 芝村 麻 キリスト教伝来時における「大日」について
- 谷保洋一郎 現代書と仏教思想
- 【仏教福祉学コース】
- 麻 知博 障害者の身のまわりから福祉を考える-その改善の実態と方向性-
- 麻生 航 身体障害者と旅行
- 上中 一成 児童虐待の実態と背景-トラウマを中心についての考察-
- 大内 稔哉 痴呆老人の理解と介護について
- 岡本 稔 問題をおこす少年の罪と罰について
- 奥 俊徳 福祉施設の経営(運営)の問題
- 小保方敬子 子どもが求めていること・求められていること-「教育」への疑問-
- 角本 進也 福祉の基本問題-人口問題と貧困をめぐる

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 亀田 冨美 | ってー
時代に呑みこまれる子どもたち-消費される自己を見つめて- | 村田 智彦 | 日本における障害児の精神的問題-バーチャル・リアリティが与える影響を考える- |
| 河野 竜也 | 福祉と犬-「犬」を通して見た社会と人間- | 森山 敏和 | 障害者とノーマライゼーション-障害者スポーツのあり方とハイテク福祉について- |
| 西條 貴博 | スウェーデンは必ずしも正統か | 山田 直人 | モンゴルの福祉(経済)情勢と日本の援助 |
| 齋藤 達郎 | モンゴルの福祉-モンゴルの貧困問題- | 湯川 定代 | 「古い」と生活-自分らしく在るために- |
| 佐藤 貴郎 | 親子関係を深めるための保育所の役割 | 吉村 公作 | 障害者の自立から見る日本人の自立視 |
| 篠田 桂 | 育児ストレスから生じる問題-虐待をする親について- | 岡本 厚美 | 子どもの育て方、育ち方-私の生いたちをきっかけにして- |
| 田川 桃代 | 義親の介護における家族の問題 | 川邊美千代 | 障害児を持つ親・家族は本当に不幸なのか-出生前診断から考える- |
| 田島 崇行 | 高齢者福祉について-「寝たきり」大國ニッポンへの提言- | 田中 富三 | 人間福祉の基本問題について-自然派・実践的思想家(二宮尊徳、福岡正信、セン氏)の福祉視点からの一考察と21世紀への警鐘- |
| 辰己 善彦 | 聴覚障害者のコミュニケーション問題と生活 | 富永 武彦 | 未知数の可能性-臓器移植にかける人々- |
| 塚本 孝弘 | 日本の福祉の基本問題-特に、日本人の問題意識を中心に- | 中島 寿珠 | 自己の気づきについて-子どもの存在から学ぶ- |
| 中島 朋子 | 21世紀の福祉の在り方について-公的介護保険・社会福祉基礎構造改革を中心に- | 野尻智津子 | “非行児童”というレッテルを貼られた少年たち-“非行児童”は“普通の児童”と異なるのか- |
| 南部めぐみ | 「尊敬のある死」の在り方について-ターミナルケアの視点から- | 檜垣 健一 | 社会保障と雇用観について-社会保障に対する若年層からのアプローチ- |
| 西山 英男 | 何が障害者の自立を妨げているのか-支援活動の体験から- | 藤井 幹夫 | 老人施設利用者とのコミュニケーションのあり方 |
| 早崎 和彦 | 高齢者の在宅介護における問題 | 谷口 佳史 | 音楽療法-音楽の癒しの方- |
| 原 克則 | 児童虐待の現状と対策について-虐待される児童と虐待する親の背景を視点として- | 田中 心平 | 痴呆老人への接し方とケア |
| 東馬場俊行 | 登校拒否をどうとらえるか | 民秋 勝悟 | 障害者問題の一考察-盲導犬について- |
| 福江信太郎 | 障害者と社会差別-経済的自立を中心に- | | |
| 藤木 隆行 | 少年法は誰のためにあるのか-マスコミ報道のあり方について- | | |
| 三浦 孝将 | 障害者スポーツと社会 | | |

◆◆ 種智院大学公開講座 ◆◆

密教学シリーズ

共通テーマ「密教の本尊論」

会場/種智院大学

時間/13:00~15:00

※詳細は大学教務課までお問合せください

4月22日(土)(向島キャンパス)

「密教の本尊と普遍的個性」

種智院大学名誉教授 山崎 寮廣

本尊とは、対象として拜む諸尊の中の主尊であると共に、自身にそなわっている仏性である。自我の個性は争いと苦しみを生むが、自我の殻を破った諸尊の各々は調和のとれた普遍的個性をもつ。その胸中には、21世紀を生き抜く叡智とパワーが秘められている。

5月20日(土)(東寺学舎予定)

「密教の本尊論-密教経典および諸註釈に見る-」

種智院大学教授 北村 太道

密教の本尊論をテーマとし、密教の本尊観の特

色を述べるにあたり、「大日経」を初めとする主要密教経典に見られる本尊論を指摘し、更に諸註釈をとおしてその定義を明らかにしたい。

6月24日(土)(東寺学舎予定)

「本尊論について」

種智院大学教授 井上 亮淳

諸尊法に於ける本尊加持について。特に観音・天部・星供にみる本尊加持について。

7月15日(土)(東寺学舎予定)

「興教大師覚鑊の本尊論」

種智院大学助教授 北尾 隆心

真言宗中興の祖とされる興教大師覚鑊(1095~1143)は、平安時代の最終期を生きられた方であり、弘法大師空海(774~835)の時より時間を経たために生じてきた問題点を、忠実に弘法大師の真言密教を継承する形で答えを出そうと模索された。

それ故に、本尊論についても独自の解釈を展開されるのであり、興教大師の本尊論を見て行くことにより真言密教の本質に迫りたい。

人 事 異 動

前号でのご報告以降に異動がありましたので、ご紹介いたします。

退 職

下山 博 (事務長) 平成11年12月31日付

昇 任

杉野 文篤 (事務長) 平成12年1月1日付

森 千晴 (事務職員) 平成11年4月1日付

盛重由佳里 (事務職員) 平成11年4月1日付

会 員 消 息

【お慶び】

おめでとうございます

○須方 審證 様 (平成7)
弘美 様 (旧姓播磨 平成6)

平成11年11月6日ご結婚

○河根 大介 様 (平成8)
智江 様 (旧姓福本 平成10)

平成11年12月11日ご結婚

【訃 報】

謹んでお悔やみ申し上げます

○安田 泰祐 様 (種智院大学 4年生)
平成11年4月16日ご逝去
京都府京都市

○鈴木 證寛 様 (種智院大学 4年生)
平成12年1月12日ご逝去
愛知県名古屋市

○清瀧 智弘 様 (種智院大学 昭和38)
平成11年11月27日ご遷化

京都市右京区 廣隆寺住職 (詳細別掲)

○畠田 禪峰 様 (京都専門学校 昭和17)
平成11年12月12日ご遷化

徳島県上板町 安楽寺住職

○室寺 節応 様 (京都専門学校 昭和23)
平成12年1月6日ご遷化

京都府大江町 観音寺住職

種智院大学入試日程

◆一般入試C宗門後継・編入学・社会人入試試験実施

日程：平成12年3月16日

お問い合わせは種智院大学入試課まで

TEL 075-604-5600

兵庫支部主催同窓会のつどい開催のお知らせ

【日時】平成12年4月9日 午後7時より (1泊2日)

【場所】兵庫県

ホテルニュー淡路

(兵庫県洲本市小路谷20 TEL0799-23-2200)

【会費】懇親会10,000円 宿泊10,000円

(翌日は淡路花博等観光予定)

他の支部の方々も奮ってご参加下さい。

連絡先 (☎0797-91-0117) 幹事 足立有教まで